

No.475

 ざっそう つよ  
 雑草メヒシバ、強さのヒミツ


メヒシバは、春から夏にかけて発芽し、夏から秋に実をつけて枯れる一年草です。日当たりの良い畑や花壇、田んぼのあぜ道などにごく普通に生え、草刈りしてもなかなか絶えない、強い雑草です。その強さのヒミツを見ていきましょう。

## ■強さのヒミツ、その1

去年の秋、科学博物館横の公園で、高さ5mほどのクロマツが一本、根返り状態になって倒れました。倒木はすぐに片付けられ、地面にいた穴も新しい畑のようにきれいに整えられました。そして今年の夏、そこに大量のメヒシバが生えてきたのです。



これは、土の中で何年間も眠っていたメヒシバの種子が、地表に出て強い光を浴びたり、温められたりしたことで、いっせいに発芽したものだと考えられます。メヒシバは‘その時’が来るのを土の中で待つことが出来る強さを持っています。

## ■ヒミツ、その2

メヒシバは、刈られてもすぐに復活します。これは、新芽を作る部分が地面の近くにあることで、新芽を刈られずにすみ、そこからすぐに再生できるためです。



新芽を出す茎は地面をはっている

## ■ヒミツ、その3

7月末、公園にあったメヒシバを並べてみました。大きく育ってたくさんの穂をつけたものや、小さくて少しの穂をつけたものなど、穂をつけた株のサイズは変化に富んでいました。小さい株は、つい数日前に発芽したものでしょう。大きくなるか小さくなるかは、種子の時にはおおかた決まっているようです。

## ■確実に子孫を残す

いつなんどき、刈りとられてしまうか分からない環境では、土の中で休眠するものや大きく育つもの、早く実をつけるものなど、いろいろな性質の種子をまいておけば、将来きっと、どれかが当たるはず。メヒシバはこのようにして、子孫を残す確実性を高めて、雑草として生き続けているのです。



穂をつけているメヒシバの大きさ。左上は種子(長さ1.8mm)

(太田道人)